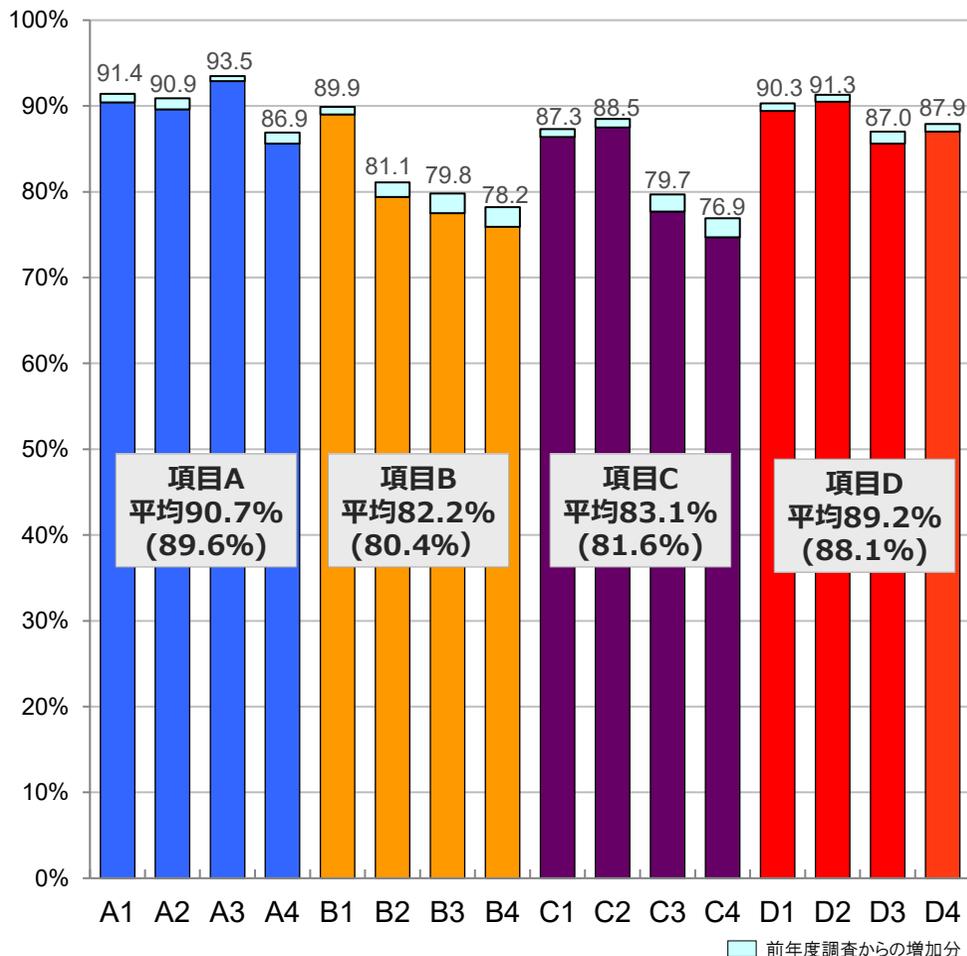


② 教職員のICT活用指導力の向上と人材の確保
—— 現状 ——

教員のICT活用指導力の状況

(令和6年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果概要(抜粋))



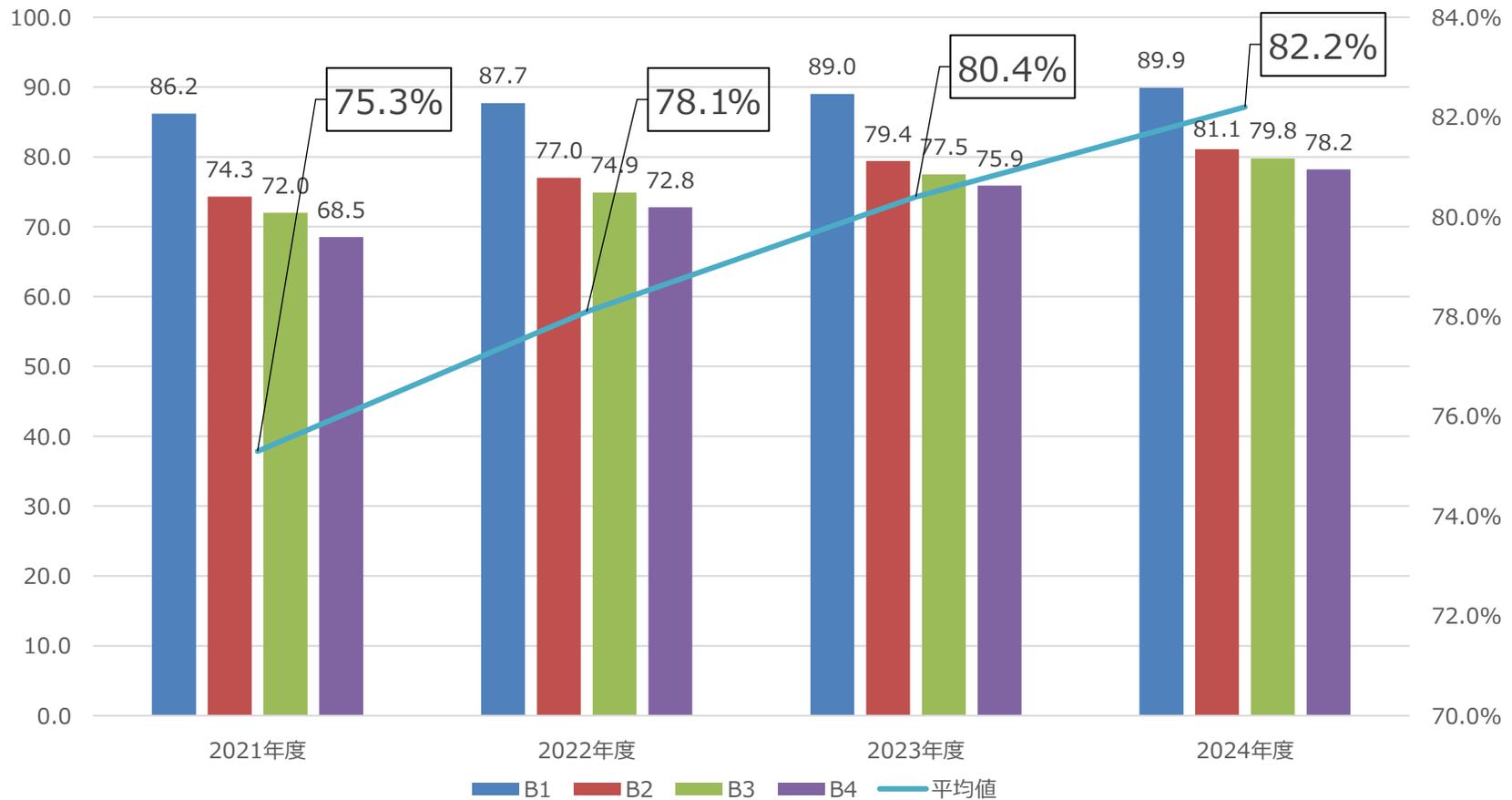
※ ()内の数値は前年度の値。
 ※ 文部科学省「教員のICT活用指導力チェックリストの改訂等に関する検討会」において、平成30年度に取りまとめられた4つの大項目(A~D)と16の小項目(A1~D4)からなるチェックリストに基づき、令和5年度において授業を担当している教員が自己評価を行う形で調査を行った。
 ※ 16の小項目(A1~D4)ごとに「できる」「ややできる」「あまりできない」「まったくできない」の4段階評価を行い、「できる」若しくは「ややできる」と回答した教員の割合を、大項目(A~D)ごとに平均して算出した値。

A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	
A1	教育効果を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。
A2	授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。
A3	授業に必要なプリントや提示資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するためにワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。
A4	学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。
B 授業にICTを活用して指導する能力	
B1	児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B2	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。
B3	知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。
B4	グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。
C 児童生徒のICT活用を指導する能力	
C1	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能(文字入力やファイル操作など)を児童生徒が身に付けることができるように指導する。
C2	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。
C3	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。
C4	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。
D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	
D1	児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。
D2	児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。
D3	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。
D4	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。

教員のICT活用指導力の状況

(令和3～6年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果概要(抜粋))

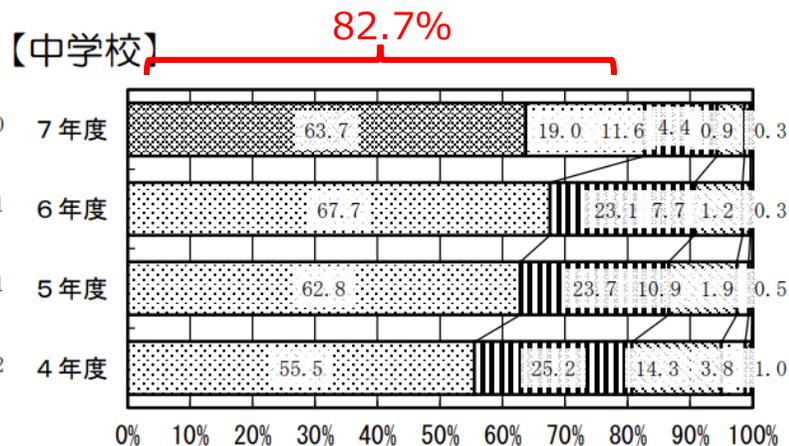
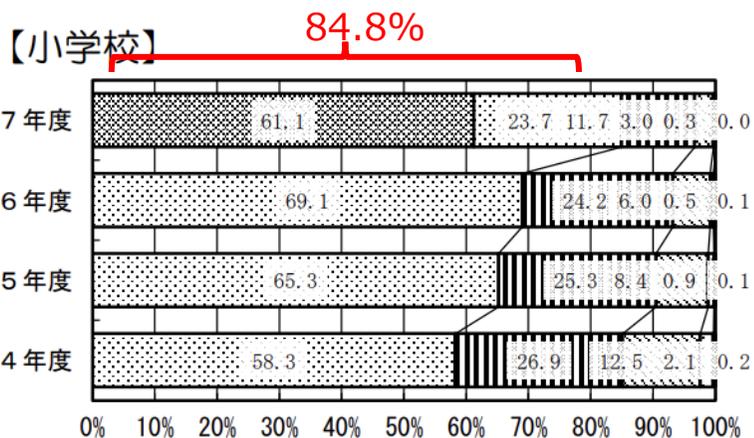
授業にICTを活用して指導する能力



B 授業にICTを活用して指導する能力	
B1	児童生徒の興味・関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B2	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。
B3	知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。
B4	グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。

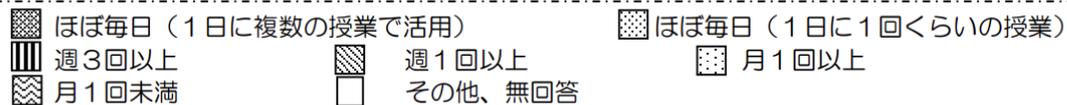
58

調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

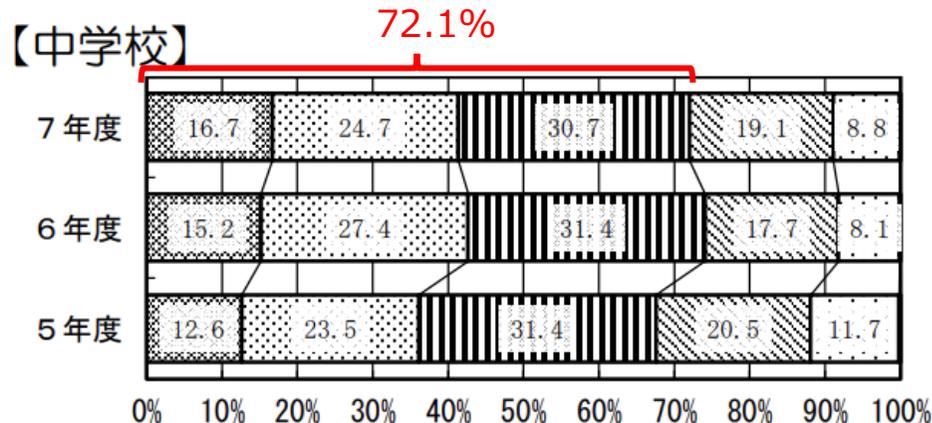
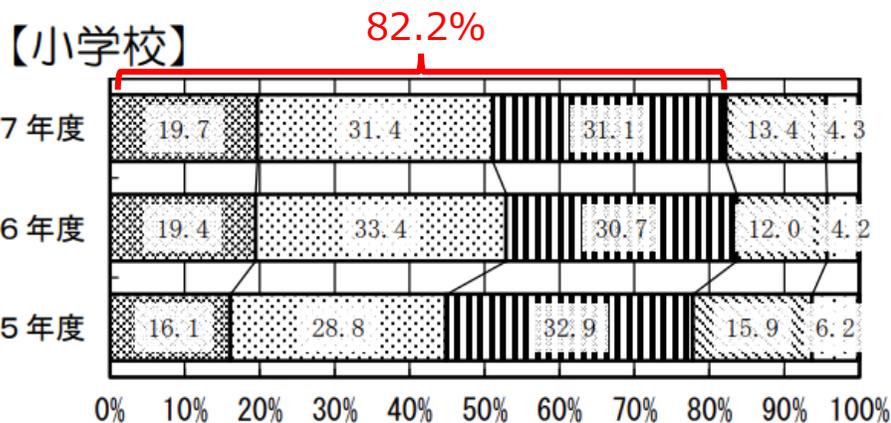


※ 令和4年度、令和5年度及び令和6年度においては、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」「月1回以上」「月1回未満」の選択肢だったため、「ほぼ毎日（1日に複数回の授業で使用）」と回答した学校がない。

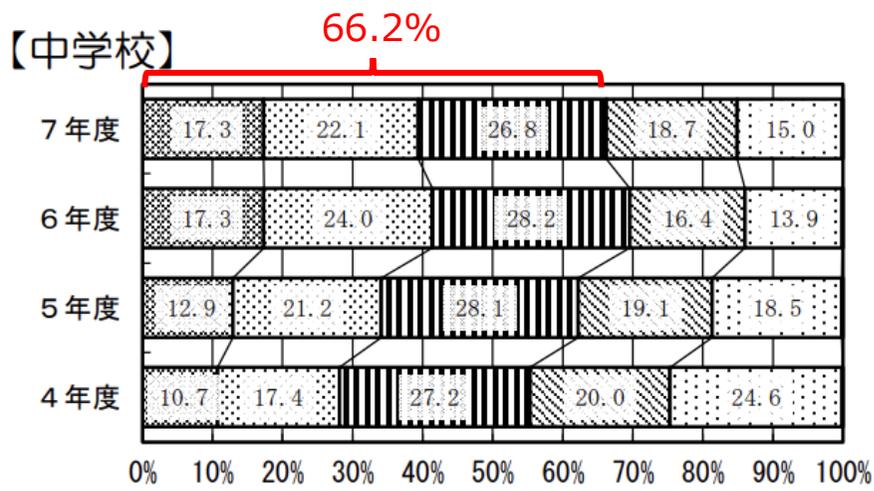
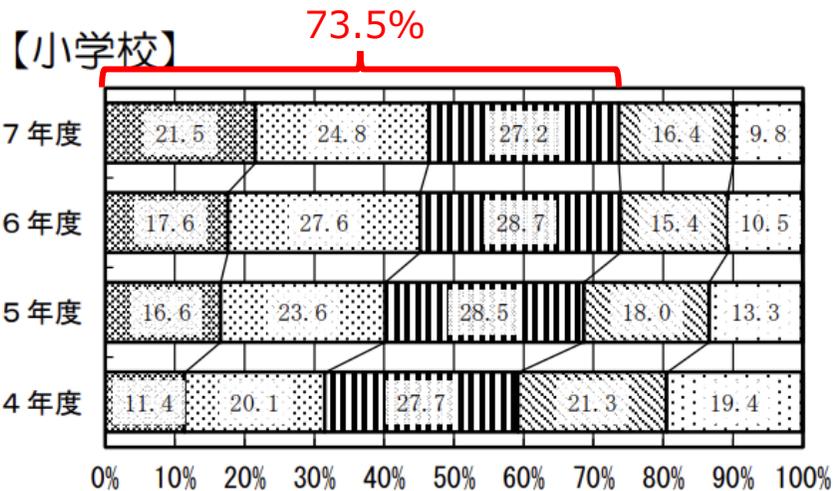
全国学力・学習状況調査 質問調査結果（児童生徒、学校）



63 調査対象学年の児童〔生徒〕が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



62 調査対象学年の児童〔生徒〕同士がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



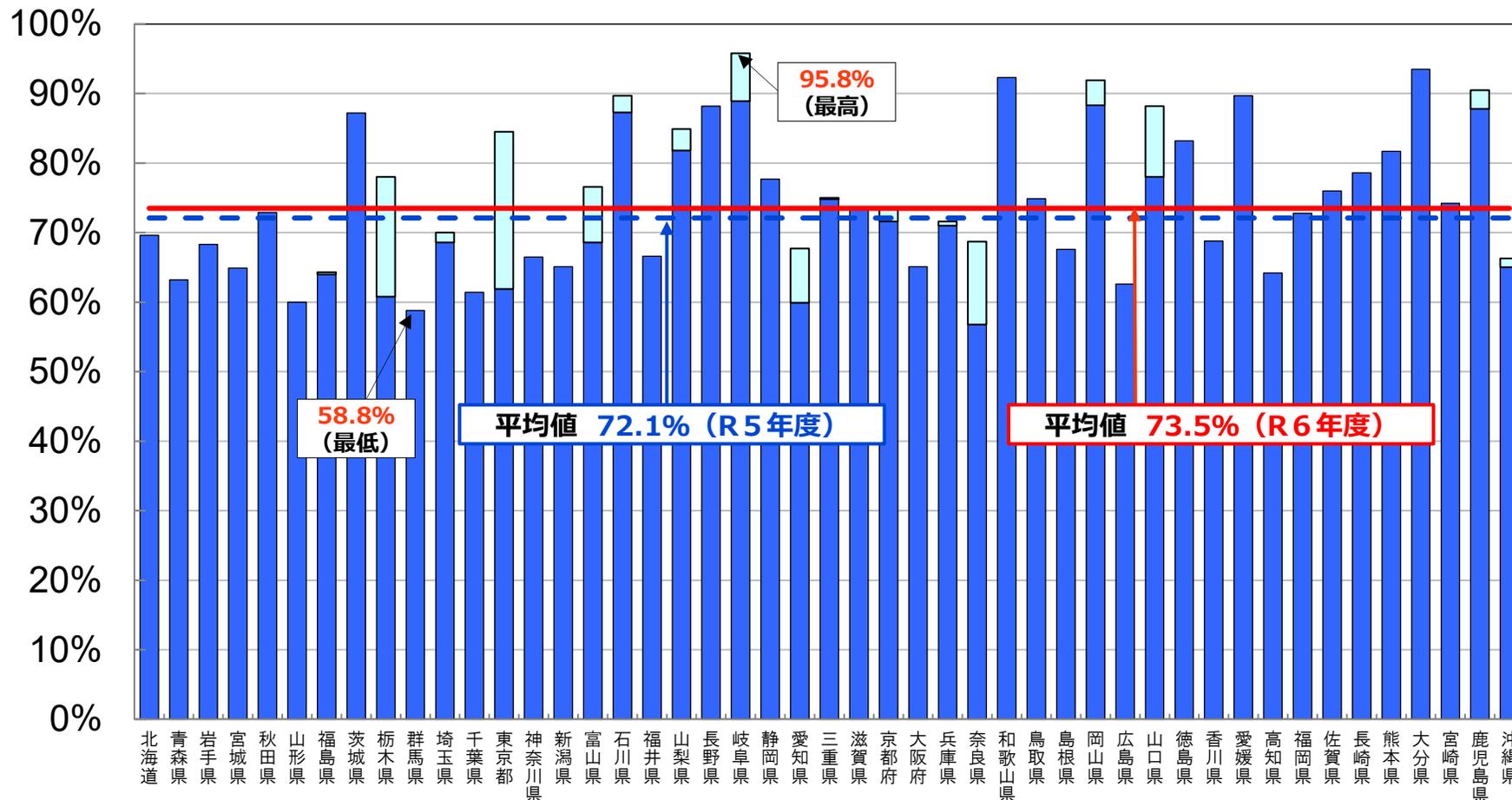
教員のICT活用に関する研修の受講状況

(令和6年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果概要(抜粋))

① 令和6年度中にICT活用指導力の各項目に関する研修を受講した教員の割合(都道府県別)

再掲

【前年度(平均:72.1%、最高:99.6%、最低:56.8%)】



※ 1人の教員が複数の研修を受講している場合も、「1人」とカウントする。
 ※ 令和7年3月末日までの間に受講予定の教員も含む。

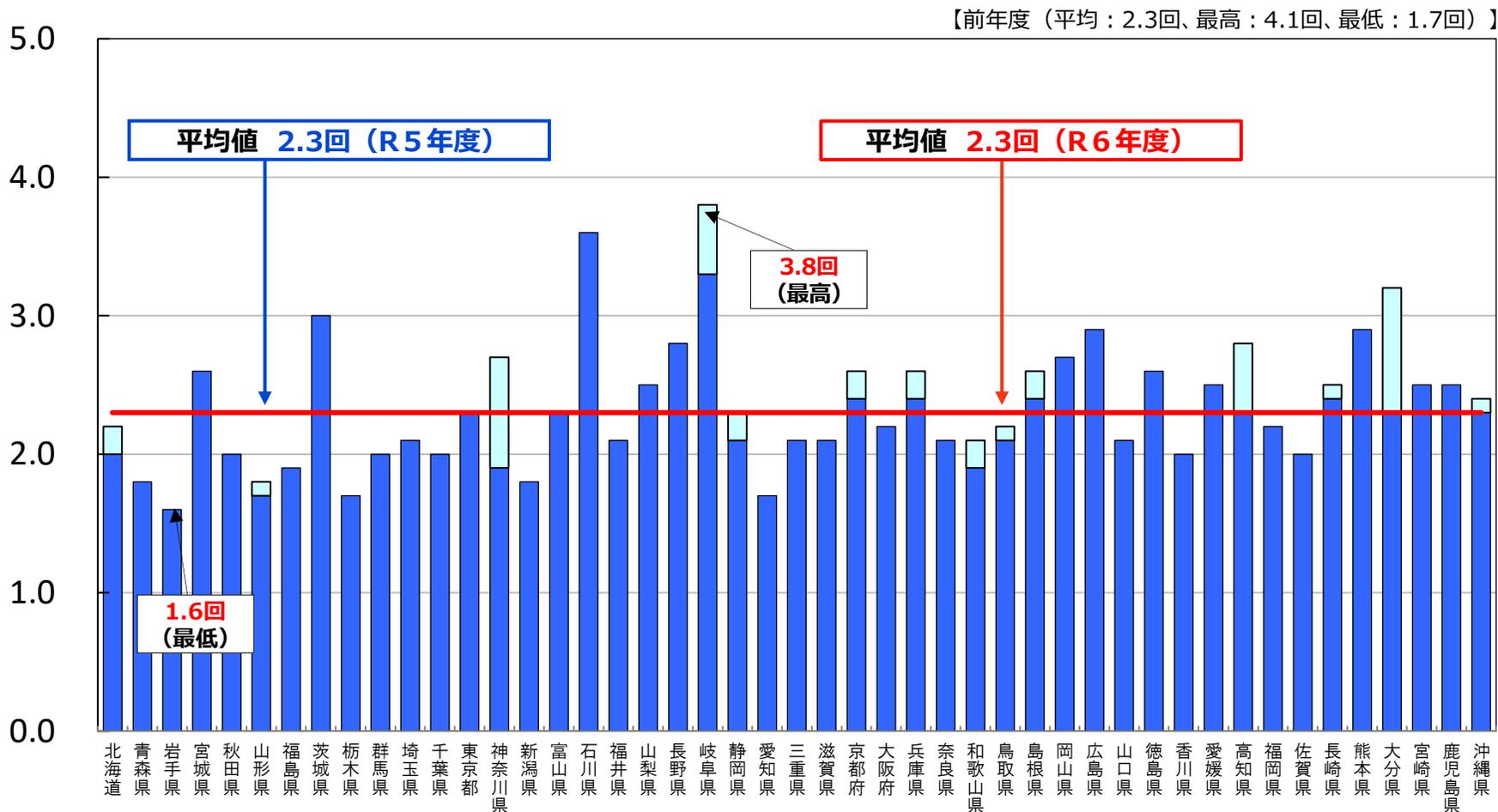
前年度調査からの増加分

教員のICT活用に関する研修の受講状況

(令和6年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果概要(抜粋))

②令和6年度中にICT活用指導力の各項目に関する研修を受講した教員1人当たりの平均受講回数(都道府県別)

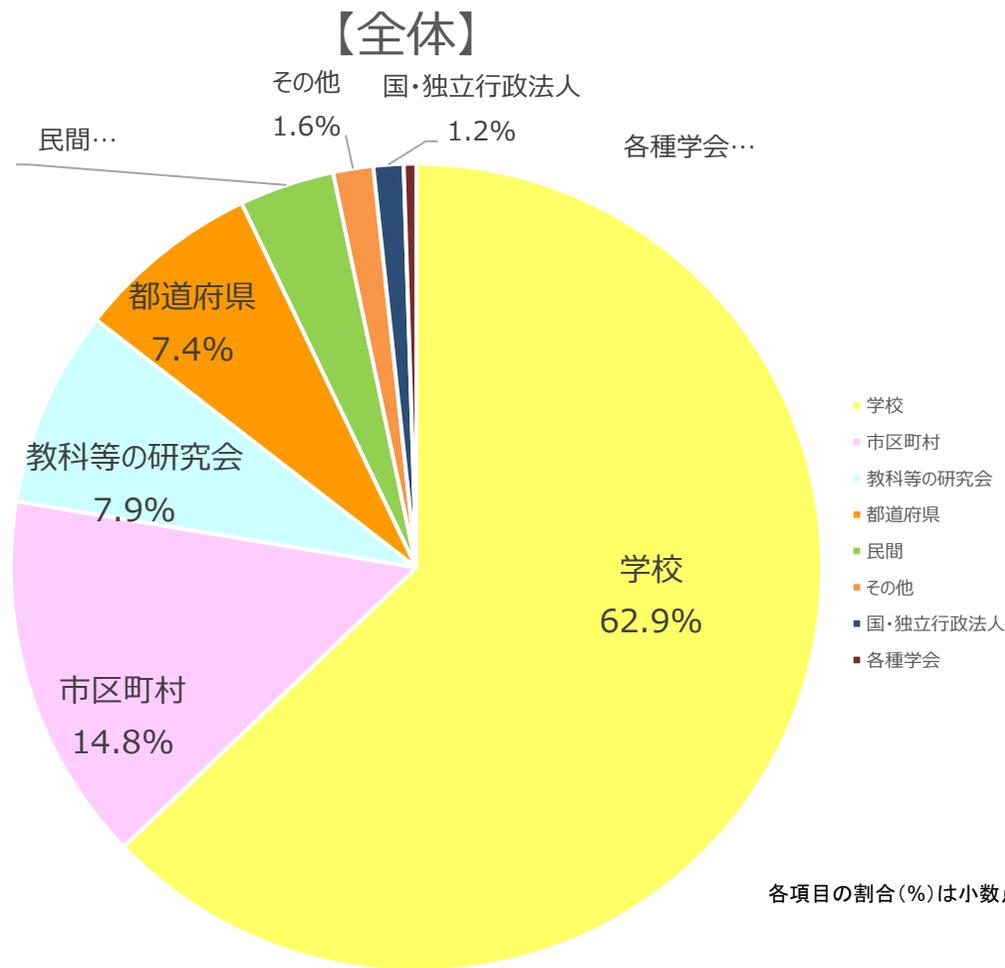
再掲



※ 研修を受講した回数/教員のICT活用指導力の状況の各項目に関する研修を受講した教員数
 ※ 複数の教員が同一の研修を受講している場合は、「参加人数×参加回数」(のべ回数)としている。

前年度調査からの増加分

③受講した研修の実施主体割合



OECD国際教員指導環境調査 (TALIS) 2024報告書のポイント (抜粋)

(5) ICT等について

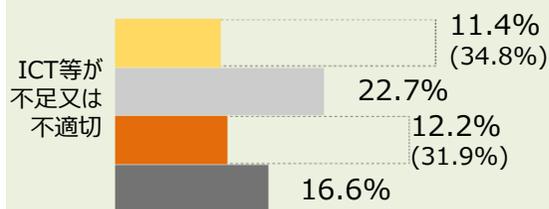


※中学校調査は、OECD報告書に合わせてOECD平均（27か国・地域）を提示。小学校調査は、参加国が少なく、OECD平均が報告書で示されていないため、OECD報告書に合わせて参加国平均（12か国・地域）を提示。
※点線及び（ ）内の数値は前回2018年調査。

- ICT等が不足又は不適切と回答した割合は、前回2018年調査と比べて、小中学校とも約20%ポイント減少し、国際平均よりもよい状況にある。
- ICT等を利用した学習支援がかなり/非常にできていると回答した日本の教員の割合は、前回2018年調査と比べて、小中学校とも約10%ポイント増加。
- ICT等を授業に取り入れる教育スキル及びICT等を使用する技術スキルに関する専門的な学習の必要性を感じている教員の割合は、小中学校とも国際平均よりも約20%ポイント高い。
- ICT等を児童／生徒の学習等へ使用することは有用であると考える割合も、小中学校とも国際平均より高い。

学校における教育資源の不足感

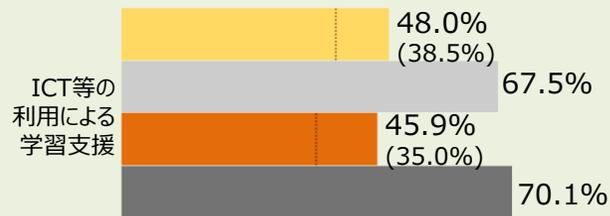
<校長調査>



学校で、現在、質の高い指導を行う上で妨げになっていることについて、「指導のためのICT等（デジタルリソースやツール）が不足している、あるいは適切でない」ことが「かなり妨げになっている」又は「非常に妨げになっている」と校長が回答した学校の教員の割合。

指導実践実施度の自己評価

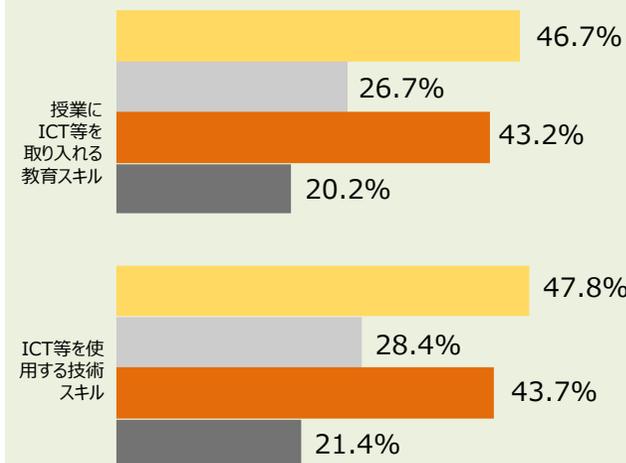
<教員調査>



指導において、「ICT等（デジタルリソースやツール）の利用によって児童／生徒の学習を支援する」ことが「かなりできている」又は「非常にできている」と回答した教員の割合。

専門的な学習の必要性

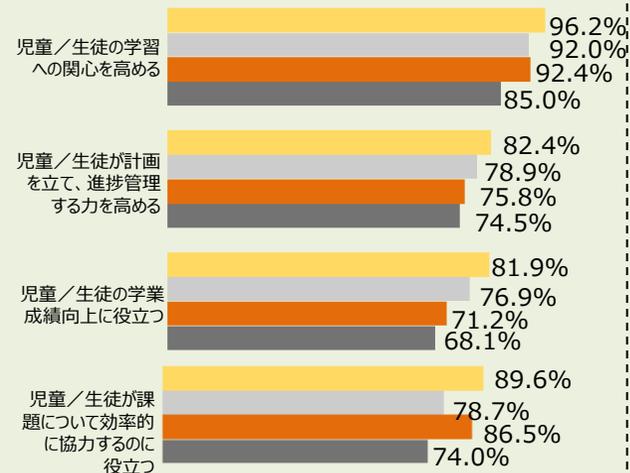
<教員調査>



「授業にICT等（デジタルリソースやツール）を取り入れるための教育スキル」「ICT等（デジタルリソースやツール）を使用するための技術的スキル」についての専門的な学習の必要性が「高い」と回答した教員の割合。

児童／生徒の学習へのICT等の使用に関する考え方

<教員調査>



「ICT等（デジタルリソースやツール）の使用」について、「ICT等（デジタルリソースやツール）の使用は、学習に対する児童／生徒の関心を高めるのに役立つ」「ICT等（デジタルリソースやツール）の使用は、児童／生徒が自身の課題の計画を立て、進捗管理をする力をつけるのに役立つ」「ICT等（デジタルリソースやツール）の使用は、児童／生徒の学業成績向上に役立つ」「ICT等（デジタルリソースやツール）の使用は、児童／生徒が課題について効率的に協力するのに役立つ」という質問に「当てはまる」又は「非常に当てはまる」と回答した教員の割合。

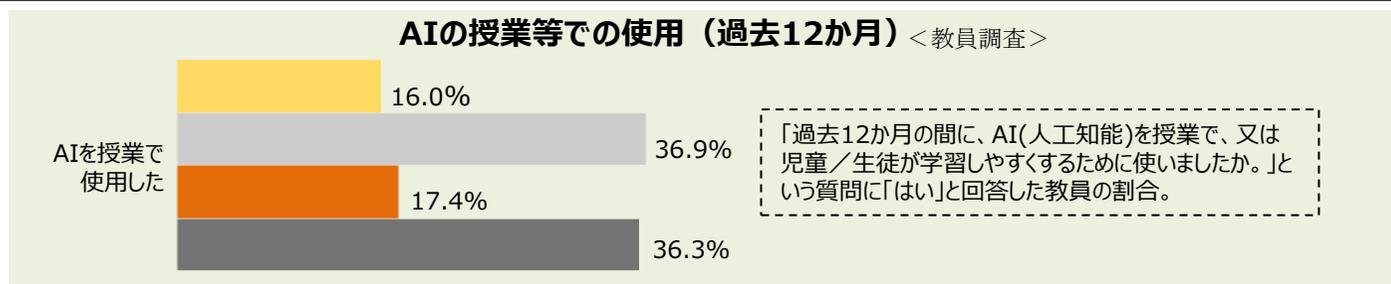
OECD国際教員指導環境調査 (TALIS) 2024報告書のポイント (抜粋)

(6) AI (人工知能) について

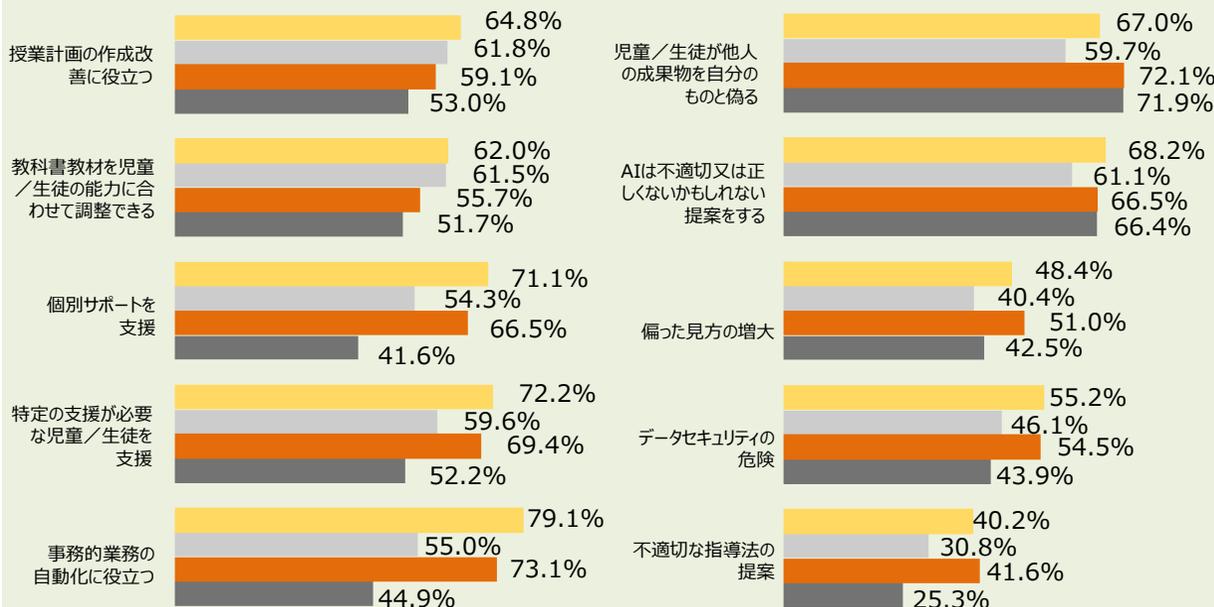


※中学校調査は、OECD報告書に合わせてOECD平均（27か国・地域）を提示。小学校調査は、参加国が少なく、OECD平均が報告書で示されていないため、OECD報告書に合わせて参加国平均（12か国・地域）を提示。
※点線及び（ ）内の数値は前回2018年調査。

- 授業等におけるAIの使用状況は、日本は、小中学校とも国際平均より低い。
- 日本の教員は、児童／生徒の個別サポートや事務的業務の自動化等にAIが役立つと考えている割合が小中学校とも国際平均より高い。
- 他方、AIが児童／生徒の偏った見方を増大させると考える日本の教員の割合が小中学校ともに国際平均より高いなど、AIに関するリスクを認識している教員の割合も高い。



AIの使用についての考え方 <教員調査>



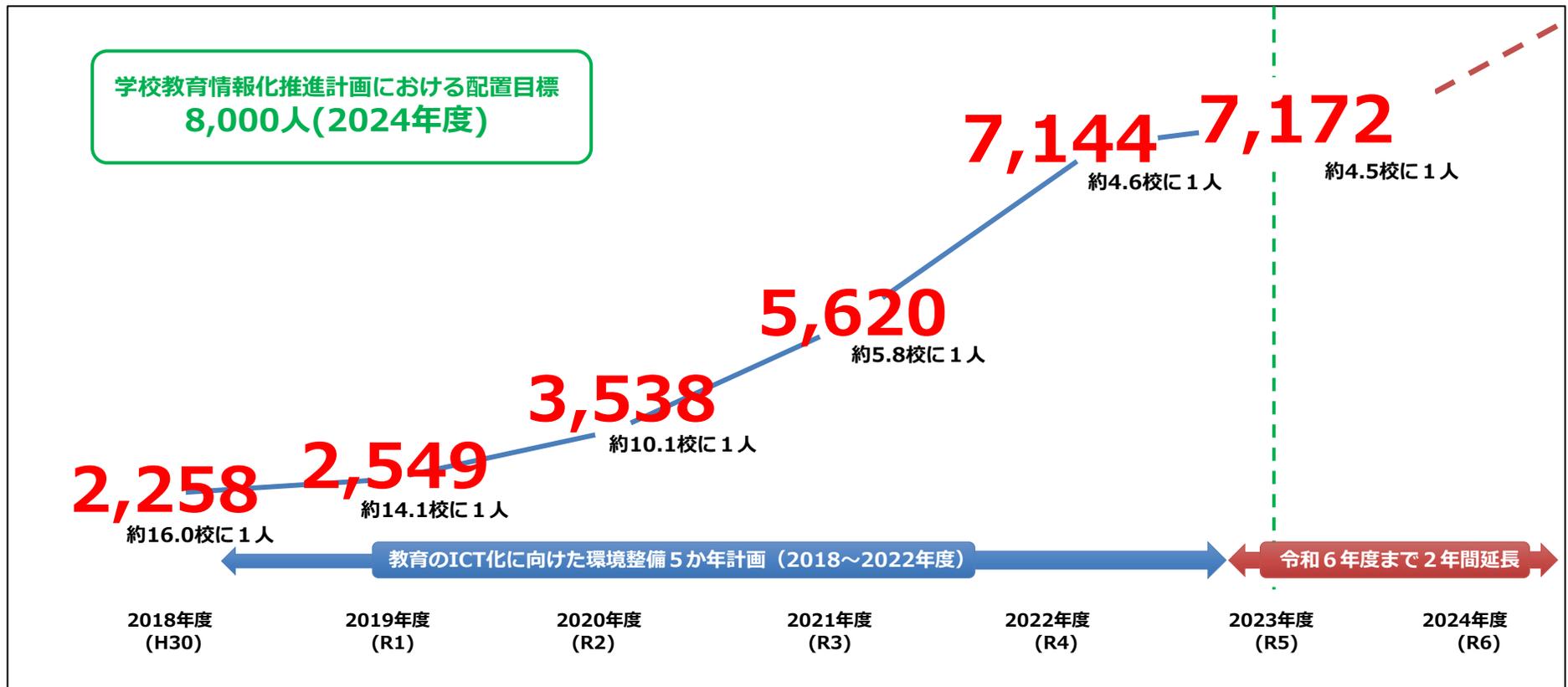
「児童／生徒の学習のためにAI(人工知能)を使うこと」について

- ・AI (人工知能)は、教員が授業計画を作成したり、改善したりするのに役立つ
- ・AI (人工知能)により、教員は教科書・教材を児童／生徒の能力に合わせて調整できるようになる
- ・AI (人工知能)は、教員が児童／生徒を個別にサポートするのを支援する
- ・AI (人工知能)は、特定の支援を必要とする児童／生徒（多言語学習者や特別な支援を要する生徒など）を支援する
- ・AI (人工知能)は、教員が事務的業務を自動化するのに役立つ
- ・AI (人工知能)により、児童／生徒は他人の成果物を自分のものと偽ることができるようになる
- ・AI (人工知能)は、不適切又は正しくないかもしれない提案をする
- ・AI (人工知能)は、児童／生徒の誤った認識を強める偏った見方を増大させる
- ・AI (人工知能)は、児童／生徒のデータのプライバシーとセキュリティを危険にさらす
- ・AI (人工知能)は、教員が児童／生徒に用いる指導法として不適切なものを提案する

の各項目に「当てはまる」又は「非常によく当てはまる」と回答した教員の割合。

令和5年度 ICT支援員（情報通信技術支援員）の配置状況

- 教育のICT化に向けた環境整備計画において措置されている水準は、**4校に1人**。
（単年度1,805億円の地方財政措置にICT支援員分を措置）
- 配置数は年々増加しており、**令和5年度末時点で、7,172人配置**。（約4.5校に1人）
- **約7割の自治体が配置している一方で、約3割の自治体は配置していない。**
- **約5割の自治体は4校に1人以上配置している。**

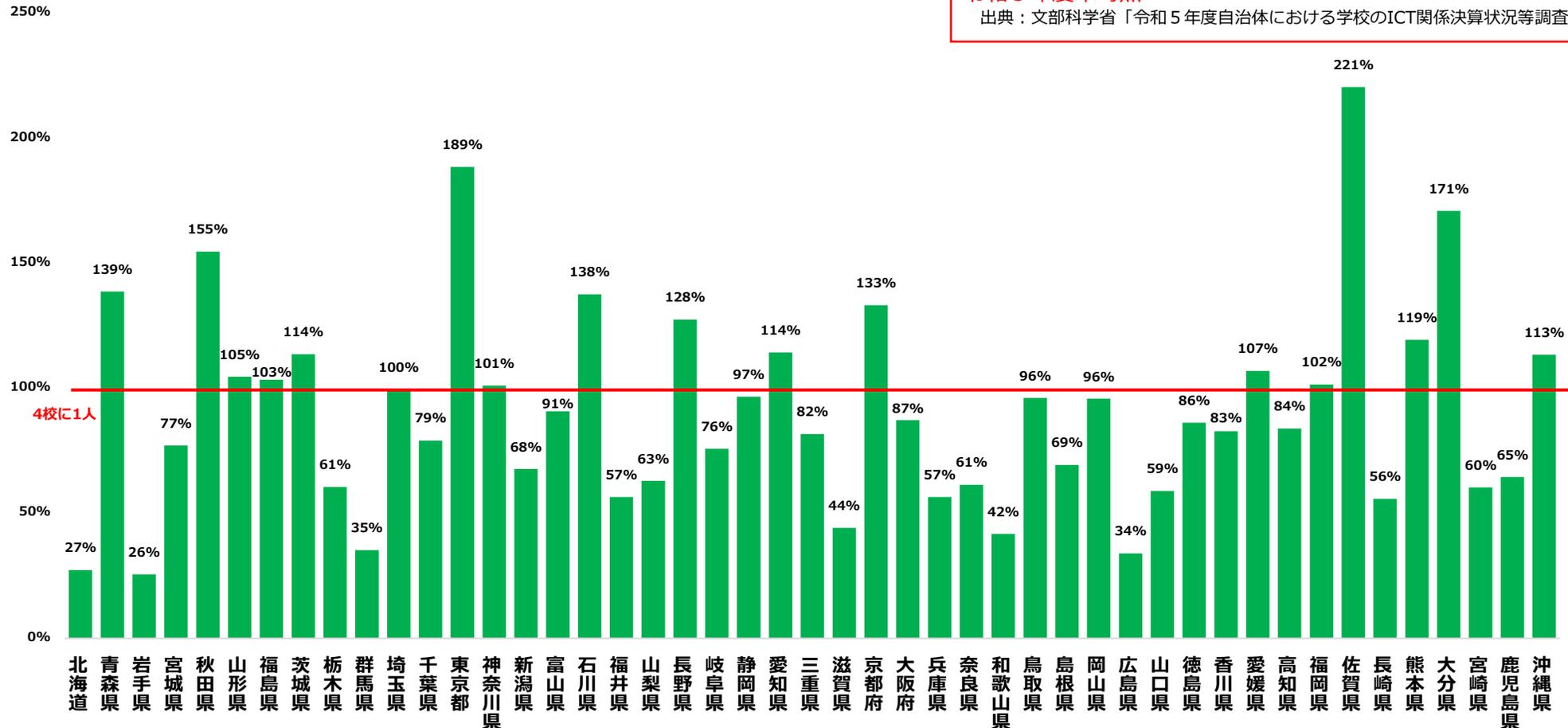


※学校教育法施行規則において「情報通信技術支援員は、教育活動その他の学校運営における情報通信技術の活用に関する支援に従事する。」とされている。
※文部科学省「学校におけるICT関係決算状況等調査（令和5年度末時点）」を基に作成している。
※ICT支援員の事務を業務委託契約で実施している地方公共団体においては、ICT支援員の人数を正確に把握できない可能性もある。
※各年度のICT支援員の配置の割合については、各年度の学校数を基に算出している。

令和5年度 ICT支援員（情報通信技術支援員）の配置状況【都道府県別 ※政令市除く】

目標水準（4校に1人）の達成率

令和5年度末時点
出典：文部科学省「令和5年度自治体における学校のICT関係決算状況等調査」



全学校数	1492	461	497	403	334	339	696	791	565	543	1139	1111	2139	676	617	304	338	302	290	637	611	599	1191	566	378	347	1070	1004	329	390	206	339	479	575	485	291	255	454	345	753	290	550	430	425	404	767	474	
目標水準	373	116	125	101	84	85	174	198	142	136	285	278	535	169	155	76	85	76	73	160	153	150	298	142	95	87	268	251	83	98	52	85	120	144	122	73	64	114	87	189	73	138	108	107	101	192	119	
1人当たりの学校数	15	3	16	5	3	4	4	4	7	11	4	5	2	4	6	4	3	7	6	3	5	4	3	5	9	3	5	7	6	10	4	6	4	12	7	5	5	4	5	4	2	7	3	2	7	6	4	
配置人数	102	161	32	78	130	89	180	225	86	48	284	220	1009	171	105	69	117	43	46	204	116	145	341	116	42	116	234	142	51	41	50	59	115	49	72	63	53	122	73	192	161	77	129	183	61	124	135	
内訳	小学校等	66	49	21	23	91	59	104	141	57	30	174	145	502	87	63	43	60	25	24	122	69	89	165	82	27	44	160	85	32	21	20	33	73	25	37	34	30	55	45	98	68	42	70	75	39	57	89
	中学校等	36	33	10	17	37	30	60	83	29	16	98	73	261	48	38	22	37	18	12	78	42	50	168	28	15	22	74	48	19	12	15	16	31	16	18	19	20	33	19	59	49	35	40	34	22	40	40
	高等学校	0	55	1	27	2	0	12	0	0	2	9	0	182	33	2	3	17	0	7	0	3	3	6	5	0	38	0	5	0	6	7	7	8	7	13	10	1	34	3	26	36	0	13	51	0	23	6
	特別支援	0	24	0	11	0	0	4	1	0	0	3	2	64	3	2	1	3	0	3	4	2	3	2	1	0	12	0	4	0	2	8	3	3	1	4	0	2	0	6	9	8	0	6	23	0	4	0

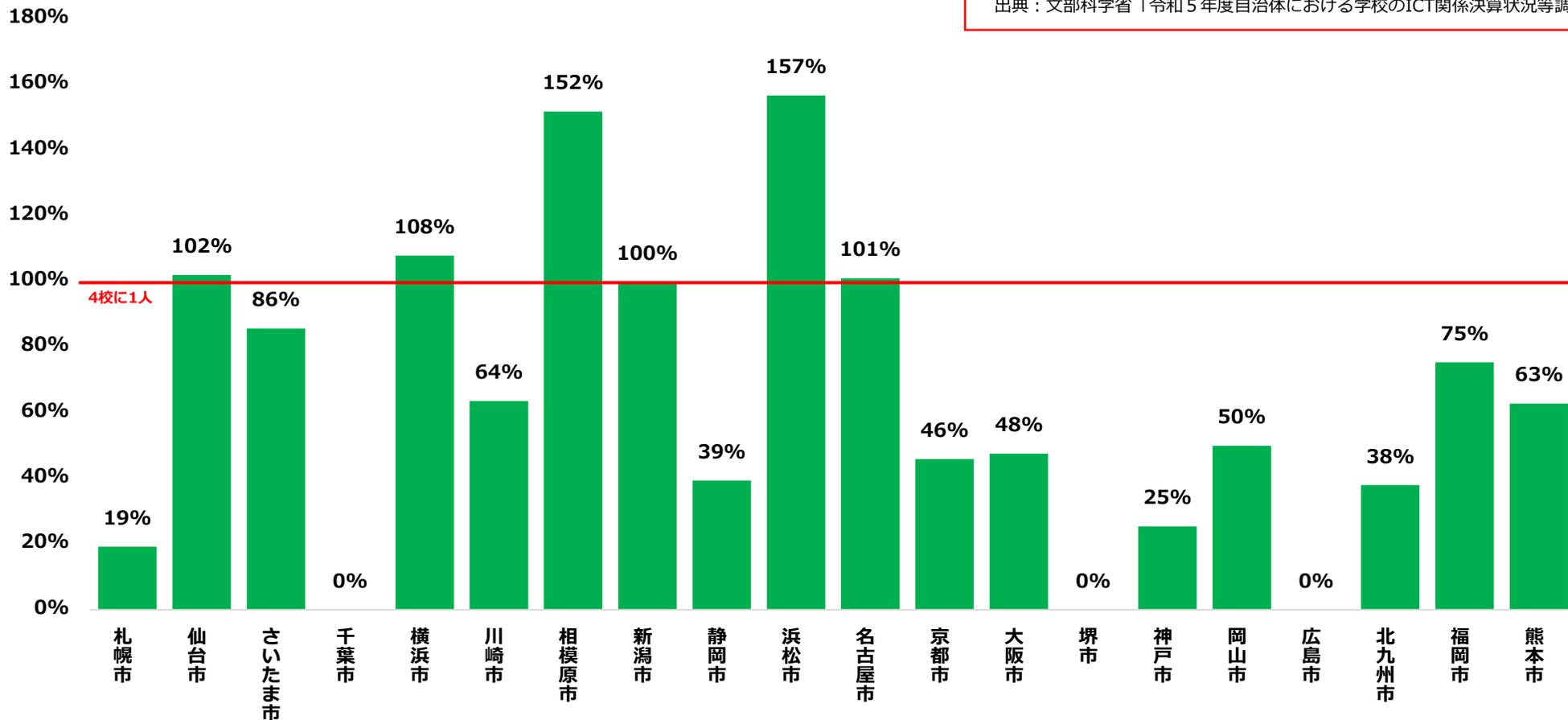
※ 複数の校種にまたがって支援している場合は、支援の比率が高い校種に含める。
 ※ 義務教育学校は小学校等、中等教育学校は中学校等に含める。

令和5年度 ICT支援員（情報通信技術支援員）の配置状況【政令市別】

目標水準（4校に1人）の達成率

令和5年度末時点

出典：文部科学省「令和5年度自治体における学校のICT関係決算状況等調査」

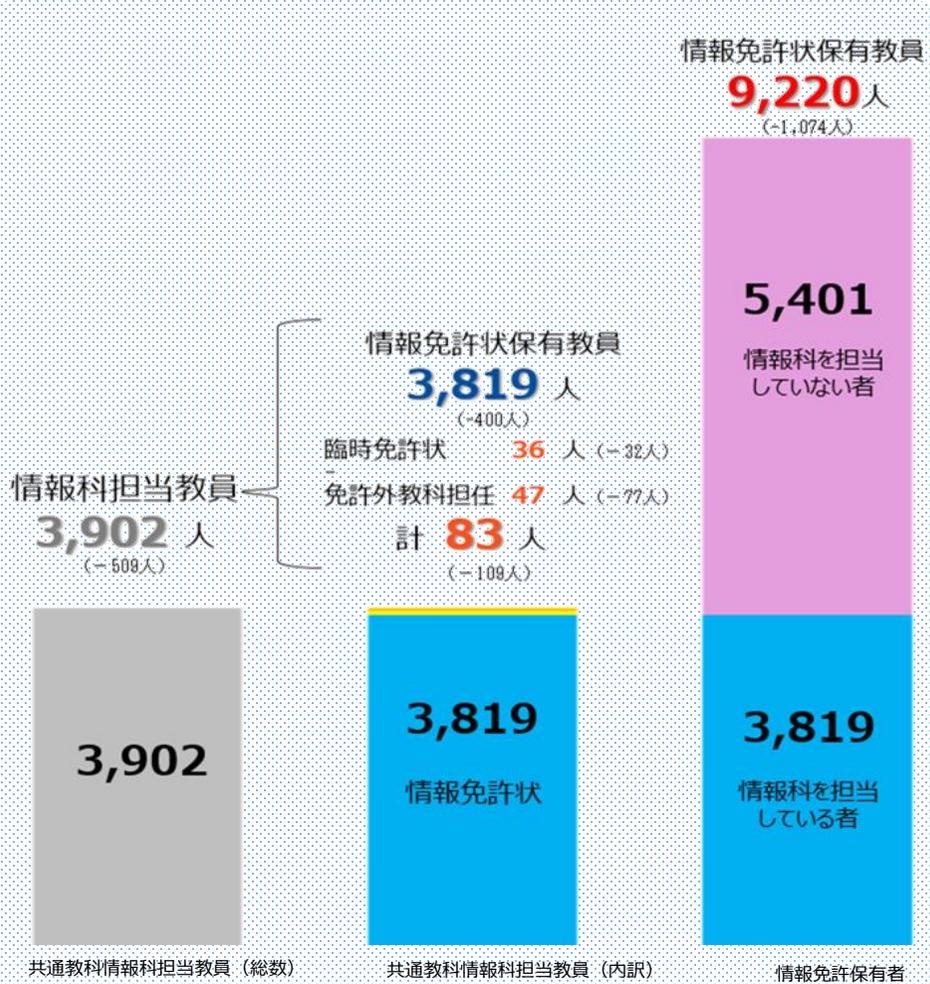


	札幌市	仙台市	さいたま市	千葉市	横浜市	川崎市	相模原市	新潟市	静岡市	浜松市	名古屋市	京都市	大阪市	堺市	神戸市	岡山市	広島市	北九州市	福岡市	熊本市
全学校数	310	190	168	166	504	175	105	167	130	147	393	241	411	139	252	126	213	198	228	139
目標水準	78	48	42	42	126	44	27	42	33	37	99	61	103	35	63	32	54	50	57	35
1人当たりの学校数	21	4	5	-	4	6	3	4	10	3	4	9	8	-	16	8	-	10	5	6
配置人数	15	49	36	0	136	28	41	42	13	58	100	28	49	0	16	16	0	19	43	22
内訳	小学校等	9	23	33	0	85	19	35	9	40	66	19	36	0	10	11	0	12	28	14
	中学校等	5	22	3	0	36	8	6	4	18	28	8	13	0	5	4	0	6	13	6
	高等学校	1	3	0	0	4	0	0	1	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	特別支援	0	1	0	0	11	1	0	1	0	0	2	1	0	1	0	0	1	2	1

※ 複数の校種にまたがって支援している場合は、支援の比率が高い校種に含める。
 ※ 義務教育学校は小学校等、中等教育学校は中学校等に含める。

高等学校情報科担当教員の配置状況

令和6年度



※配置状況は、令和6年5月1日時点 () 内の人数は、R5調査との比較

※本資料における用語の定義は以下のとおりとする。

- ・情報科：共通教科情報科
- ・臨時免許状：高等学校教諭臨時免許状（情報）の授与を受けた者
- ・情報免許状：高等学校教諭普通免許状（情報）及び高等学校教諭特別免許状（情報）

臨時免許状及び免許外教科担任数(自治体別)

臨時免許状・免許外教科担任が1人以上いる
都道府県・政令指定都市は25/65
(高等学校の設置のない大阪府・相模原市は除く)

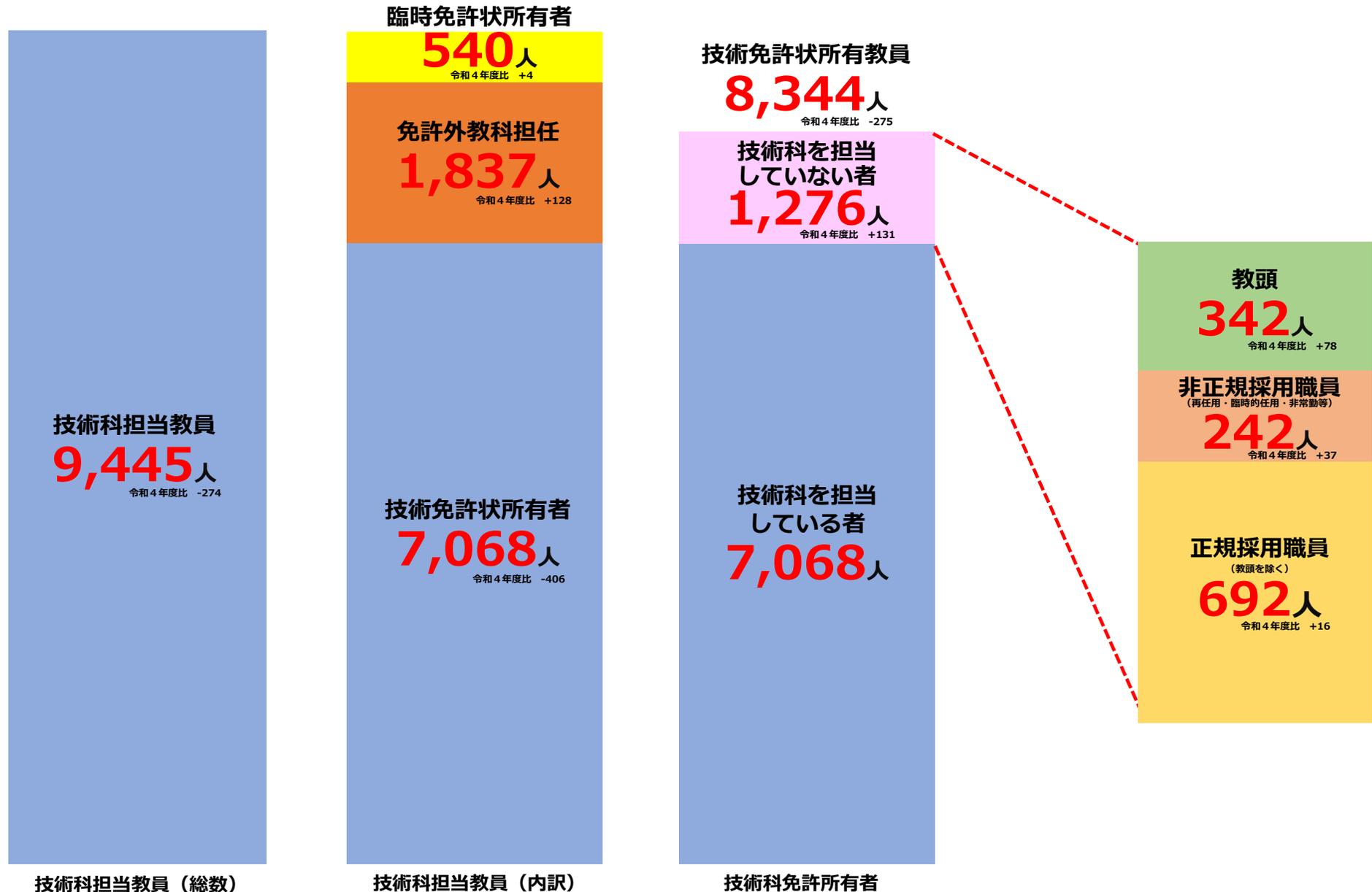


※臨時免許状・免許外教科担任が0の都道府県、政令指定都市は除いている。

※臨時免許状及び免許外教科担任で共通教科情報科を担当している83人については、研修を受講するなど指導体制の充実に努めていると回答

・免許外教科担任：高等学校において、情報の免許外教科担任の許可を受けた者

中学校技術分野担当教員の免許状所有状況（令和6年度）



※臨時免許状…助教諭、養護助教諭の免許状。普通免許状を有する者を採用することができない場合に限り、教育職員検定を経て授与。（当分の間、相当期間にわたり普通免許状を有する者を採用することができない場合に限り、都道府県が教育委員会規則を定めることにより、有効期間を6年とすることができる。）
 ※免許外教科担任制度…中学校、高等学校等において、相当の免許状を所有する者を教科担任として採用することができない場合に、校内の他の教科の教員免許状を所有する教諭等が、1年に限り、免許外の教科の担任をすることができる。校長及び教諭等が、都道府県教育委員会に申請し、許可を得ることが必要。
 ※文部科学省「中学校技術・家庭科（技術分野）の指導体制に関する実態調査結果」（都道府県教育委員会・指定都市教育委員会・市区町村教育委員会対象）

② 教職員のICT活用指導力の向上と人材の確保
――― 取組一覧 ―――



背景・課題

予算額 2億円

- 当該事業は、児童生徒の資質・能力の育成に向け、一人一台端末とクラウド環境を十分に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現する（令和答申）ことを目的とし、集中期間（R5～6年度）では、特に端末の利活用促進に向けて、好事例の創出・普及展開を実施してきた。
- GIGA環境を十分に活用するためには、児童生徒に情報及び情報機器を扱う情報活用能力を育成することが必要だが、その指導性が十分啓発されておらず、資質・能力の育成に結び付く活用を進めることが必要であるといった課題があった。

→ 令和7年度は創出事例を授業改善に焦点化し、都道府県等の域内で校種を超えて横展開し全国展開することで、学校でICTの「普段使い」による教育活動の高度化を実現する。

【創出事例の対象とする具体的なイメージ】

- ①情報活用能力を育成する指導の充実 例：情報を収集する場面、情報を整理・比較する場面、情報を分かりやすく発信・伝達する・自分の考えをまとめ、発表・表現する場面
- ②主体的・対話的で深い学びの中でのICT活用（特に深い学びにフォーカス） 例：課題解決に取り組む場面、児童生徒同士がやりとりする場面、自分の考えをまとめ、発表・表現する場面

実施内容

#事例創出 #GIGA #クラウド活用 #端末の日常活用

実践創出、普及・展開

リーディング指定校：261校（小143,中109,高6,その他3）

協力校：428校 認定校：65校 計754校

※原則、同じ中学校区の小・中学校を組み合わせ（参考）R6リーディング指定校256校（小135,中106,高11,その他4）

- ・経費：1箇所 90万円程度
指定校等視察旅費、講師謝金、学習会等参加旅費 他
- ・選定方法：公募（とりまとめ団体が公募を実施）

GIGA端末・クラウド環境を活用し、

- ①情報活用能力の育成と、育成された力を活かす授業の場面の実践事例の創出
 - ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現。特に深い学びに重点を置いて実践事例の創出
 - ③ 動画教材の活用、外部専門家の参画を得たオンライン授業等
 - ④ 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等
 - ⑤ 校務のDXの推進
 - ⑥ 実践内容を動画・写真、研修のオンライン公開などにより地域内外に普及
- ※学校が一丸となって教育課程全体で実践を行う
※基本的に、上記をすべて実施



事務局
(民間)

- ・事例創出に向け指定校の設置、伴走支援
- ・ポータルサイトの作成・運営、解説動画作成 → 様々な実践事例の普及・展開
- ・全国の教師を対象とした、学習会等の開催

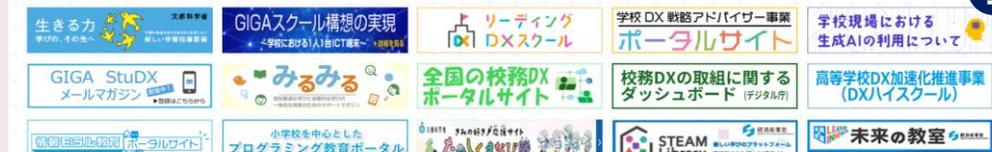
文部科学省 初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチーム

全国の教育関係者のための

役立つ情報がいっぱい！

#GIGA×深い学び(実践・指導の例) #ブチ学習会
#研修実施支援 #学習場面の1人1端末活用

1



約**160万回**※
閲覧されています

スタディーエックス スタイル

StuDX Style

デジタル学習基盤で加速する深い学び

- メルマガ新規登録
- TOPICS (改訂関係他)
- 校務DX
- ブチ学習会はコチラ
- お困り相談はコチラ
- 研修支援はコチラ

4 1. 各教科等における深い学びの実践



- 小学校
- 国語
 - 社会
 - 算数
 - 理科
 - 生活
 - 音楽
 - 職業工作
 - 家庭
 - 体育
 - 外国語活動
 - 外国語
 - 特別の教科選修
 - 総合的な学習の時間
 - 特別活動

- 中学校
- 高等学校
- 特別支援教育

の例も掲載しています



令和7年9月時点のレイアウト

※2023年1月～2025年10月までのPVを集計

「StuDX Style」は、デジタル学習基盤を効果的に活用して「主体的・対話的で深い学び」や「校務DX」の実現に向けて、全国の学校や自治体等の実践の事例や様々な記事を紹介しています。

1 そのポータルサイトとして

学びに役立つウェブサイトへのバナーを多数掲載。ここからさまざまな情報にアクセス可！

2 そのブチ学習会

デジタル学習基盤を効果的に活用した授業改善や校務DXに関する事例をオンライン公開学習会で紹介。操作体験研修も好評実施中！

3 その研修実施支援

学校や自治体等から依頼を受けて、GIGA StuDX推進チームが研修実施を支援！
※全国の実践事例の紹介、情報提供等

4 そのGIGA×深い学び

デジタル学習基盤を前提に子供たちを深い学びに誘う授業の実践・学習指導の例を紹介！

高等学校情報科に関する情報を随時お届けします！

高等学校情報科特設ページ

2023.6.



- 高等学校学習指導要領
- 高等学校学習指導要領解説
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (国立教育政策研究所)



授業担当者が活用できる**授業解説動画等** (ダウンロード可) を掲載。

情報Ⅰの実践事例を紹介！

情報処理学会 MOOC教材も無料公開！



NEW

NEW 情報Ⅰ「授業動画」掲載！

学習支援コンテンツも紹介！

情報Ⅰ、情報Ⅱを学ぶ参考となる、動画教材、プログラミングの体験コンテンツ、データサイエンスの詳しい解説等を紹介しています。



NEW

学習指導要領

授業・研修用
コンテンツ

実践事例

体制の工夫

外部人材の活用

通知・事務連絡等

関係リンク集

様々なコンテンツ情報を紹介しています！

外部人材の円滑な活用や運用ができるよう、予算や人材の手配、授業の準備・実施、活用の改善等に関する内容を紹介しています。資料もダウンロードいただけます。

- 情報関係人材の活用促進にむけた**指導モデル及びカリキュラムの手引き**
- 免許保持教員による**複数校指導の手引き**



共通教科情報科の指導の充実に向けた

通知等を掲載しています。高校情報科に関する**チラシ**もこちらからダウンロードいただけますので、情報教育の推進にお役立てください。

NEW

授業解説動画コンテンツをまとめたサイトを新しく開設！



GIGAスクール構想の実現



学習支援コンテンツポータルサイト (子供の学び応援サイト)



GIGA StuDX
メールマガジン



登録はコチラ

GIGAメールマガでも、情報科に関する情報入手できます！

NEW 高校情報科メルマガ！
好評配信中！



登録はコチラ

高等学校情報科に関する内容が随時更新！指導の充実に活用できます！



高校 情報科 検索

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416746.htm

事業内容

（1）情報活用能力育成のための実践・調査研究

令和7年度補正予算額 4億円

① 情報活用能力育成のための実践研究

- 情報活用能力の抜本的向上に係る方向性を踏まえ、次期学習指導要領で強化・充実を目指す情報教育を、移行時期も含めてどの学校でも確実に実施できるように**学習者用教材を開発**する。
- また、実証校において、開発教材及び授業等での情報活用能力の育成等の**実践・検証**を行う。

② 情報活用能力の把握に関する調査研究

学習の基盤となる資質・能力である「**情報活用能力**」を、**児童生徒がどの程度身に付けているかを定期的に測定**するため、小学校・中学校・高等学校等における児童生徒の情報活用能力調査の実施に向けた調査・研究を行う。

①事業スキーム

教材開発

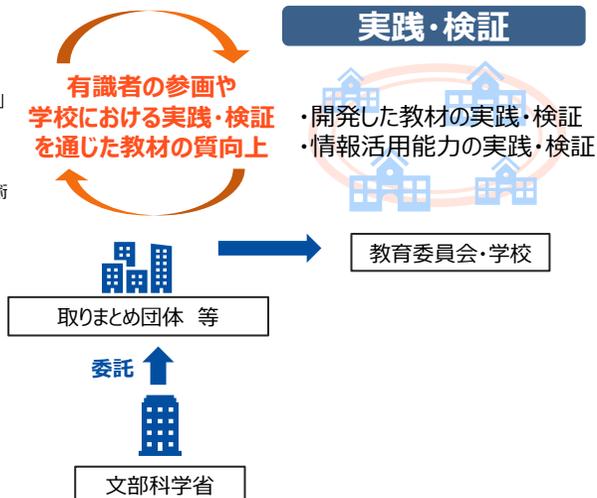
・小学校

総合的な学習の時間に「情報の領域（仮称）」を付加

・中学校

情報技術に関連する内容を強化した「情報・技術科（仮称）」を創設

※全面実施後のスムーズな移行に向けて、全国の学校で移行時期に活用できる児童・生徒用の教材を開発する。



（2）情報活用能力の育成・情報モラル教育に関する指導充実のための総合的な支援 2.5億円

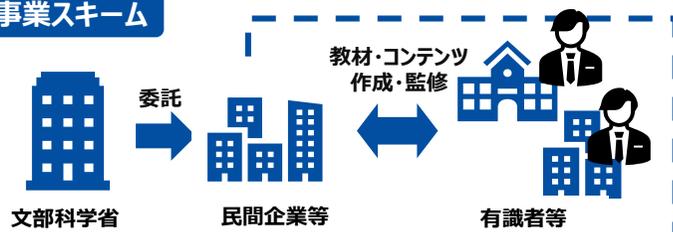
① 中学校技術科教師の指導力向上のための研修の充実支援

テクノロジーの進化や社会の変化に対応するとともに、教師の負担軽減にも資するよう、①**教師等の指導力向上のための研修用授業解説動画の作成**、②**研修の提供**、及び③**それらを活用した自治体の指導体制強化のためのネットワークづくり支援**を行う。

② 情報モラル教育推進事業

情報モラルポータルサイトにおいて、普段から意識すべきことや直面する諸課題（生成AI、ファクトチェックなど）について、児童生徒が自ら考え、解決できる力を身に付けることを目指し、**授業で活用できる各種コンテンツの充実**や**情報モラル教育指導者セミナーを開催**する。

①・②事業スキーム



③ 学校DX戦略アドバイザー事業

1人1台端末の利活用等に関する**各種専門家による相談体制を構築**し、自治体等の課題解決に向けて支援する。

事業内容

（3）中学校技術科における免許法認定講習の強化 0.4億円

① オンラインを前提とした認定講習プログラムの開発・運用等

中学校技術科の複数免許取得促進を目的とし、全国の免許法認定講習受講希望者がオンラインで負担なく受講できるようにするため、拠点大学における認定講習プログラムの開発・運用や環境整備を支援する。

- **オンラインを前提とした認定講習プログラムの開発・運用**
- **認定講習プログラムを全国展開するための環境整備**



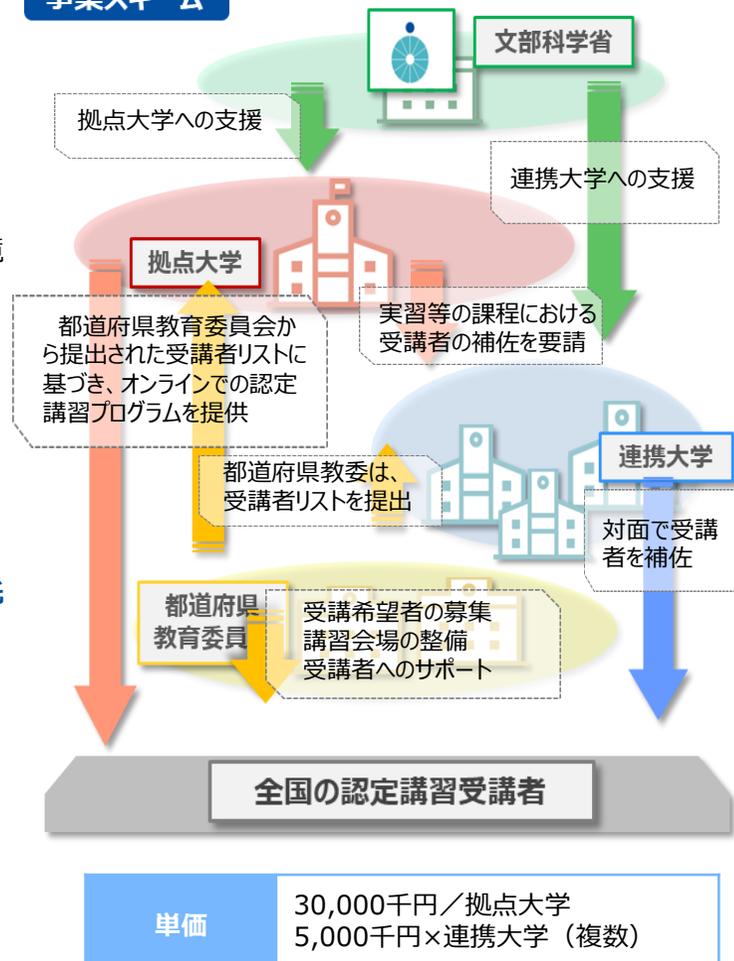
② 認定講習プログラムの全国展開を支える連携大学への支援 ※再委託

オンラインでは実施できない実習等を伴う一部課程については、全国の会場で対面で実施することとし、その際指導を補佐する連携大学への支援を実施する。

- **拠点大学と連携した認定講習の一部（実習を伴うプログラム等）を実施**
- **連携大学の環境整備**



事業スキーム



教員のICT活用研修の取組

GIGA StuDX 推進チームでは、学校教職員を対象にプチ学習会を実施します。

1回1テーマ(約15分)からの参加も可能です。

皆様のご参加を待ちっています。

*教育委員会の方も、ご参加いただけます。

令和7年度 GIGA StuDX 推進チーム 開催

第4回 プチ学習会

～実践から学ぶ～

オンライン開催

別添2

プチ学習会参加申込みはコチラ▶



<https://forms.office.com/WM08p09Yw>

くご協力ください
学校名・教育委員会名で
お申込みください。
※奉職の形でお申し込みで、必ず事前申込みにご協力をお願いします。

ラインナップ

対象者：【教員】小 中 高 特支 管理職、事務、教委、特設

【視聴型】 特別企画!

【情報モラル】 教師のためのミニ研修シリーズ

情報モラルに関する、教師に役立つ内容(フィルタリング、エコーチェンバー、偽情報、家での使い方等)について有識者が解説。

※詳細は、【別添3】のチラシを参照ください。

【第1回】 2/13 Fri. 15:50~16:05 (15分)
講師：国慶大学 准教授 山口 真一氏

【第2回】 2/13 Fri. 16:15~16:30 (15分)
講師：信州大学 准教授 佐藤 和紀氏

【第3回】 3/4 Wed. 15:50~16:05 (15分)
講師：静岡大学 准教授 塩田 真吾氏

【対象】小 中 高 特支 管理職 教委 (希望者) 事務

全国の教師の取組や工夫のポイント等も紹介します!

1 ○前編 2/25 Wed. 15:50~16:05 (15分)
○後編 3/2 Mon. 15:50~16:05 (15分)

【授業編】先生に聞いてみた! クラウド活用の工夫

#学習記録 #研修の学び #情報モラルの活用 #ICTの活用 #授業の工夫

授業でクラウドを活用されている教師の思いや改善の軌跡をインタビューし、「なぜこの形式にたどり着いたのか」「子供の学びにどんな変化があったか」といった、クラウド活用の軌跡や工夫を、授業改善の発表を促す。

【対象】小 中 高 特支 管理職 教委 (希望者) 事務

2 ○3/ 4 Wed. 16:15~16:30 (15分)

【校務編】先生に聞いてみた! タイピング指導

子供が自分の考えを表現する基盤となる「タイピングスキル」の向上をテーマに、情報活用能力向上における位置づけや現状データを踏まえたが、学校全体のタイピング指導の現状や、学習活動の中でのタイピングを活用する場から、スキル習得の効果を紹介します。

【対象】小 中 高 特支 管理職 教委 (希望者) 事務

3 ○2/27 Fri. 15:50~16:05 (15分)

【研修パッケージ】先生に聞いてみた! 多様な子供を支える端末活用

#多様性の取組 #学びの保障

全ての子供が安心して学びに向かう工夫等について、教師の思いや願いとともに紹介。

【対象】小 中 高 特支 管理職 教委 (希望者) 事務

4 ○2/27 Fri. 16:15~16:30 (15分)

【研修パッケージ】提案! 深い学びに向かう授業づくり

#授業改善 #校務研修

「深い学び」に関する解説動画を活用し、デジタル学習基盤を効果的に活用することで、全ての子どもが深い学びに向かう授業を考える「授業改善研修パッケージ」を提案。

研修パッケージで活用する動画は、田村科学主任研究室による「深い学び」の授業実践を参考にしています。

※詳細は、【別添4】のチラシを参照ください。

【対象】小 中 高 特支 管理職 教委 (希望者) 事務

5 ○前編 2/25 Wed. 16:15~16:30 (15分)
○後編 3/2 Mon. 16:15~16:30 (15分)

【校務編】先生に聞いてみた! クラウド活用の工夫

#校務DX #働き方改革

校務でクラウドを活用し、校務DXを推進されている教師にインタビューをして、情報共有の効率化、各種資料のクラウド化、校務フロー改善、校務でのクラウド活用の実践と工夫を、教師の思いや実践の発表をもとに紹介。

【対象】小 中 高 特支 管理職 事務 教委

【操作体験型】 ※操作体験用端末と視聴用端末を別で準備されることを推奨

6 ○Microsoft編 1/14 Wed. 15:50~16:30 (40分)
○Google編 1/16 Fri. 15:50~16:30 (40分)

【初めでも安心! ゼロからでもできるオンライン安心ガイド【ステップアップ】】

Microsoft Teams / Google Meetでのオンライン高画質で、子供たちや教職員とのやり取りをさらに充実させるためのポイント(音声、リアクション、チャット、資料の画面共有方法)を操作体験。

※詳細は、【別添5】のチラシを参照ください。

【対象】小 中 高 特支 管理職 事務 教委

7 ○Chromebook編 1/26 Mon. 15:50~16:30 (40分)
○Windows端末編 1/28 Wed. 15:50~16:30 (40分)
○iPad編 2/16 Mon. 15:50~16:30 (40分)

【端末機能】知りたい! アクセシビリティ機能(操作体験あり) #学びやすさ

端末に標準搭載されているアクセシビリティ機能(読み上げ、拡大表示、色の反転、入力支援機能等)を、学習画面での活用とともに紹介し、一部を操作体験。

【対象】小 中 高 特支 管理職 事務 教委

8 ○Google編 2/3 Tue. 15:50~16:30 (40分)
○Microsoft編 2/5 Thu. 15:50~16:30 (40分)

【操作体験】使える! 校務×クラウド活用

#資料集約 #校内外共有

様々なファイルをクラウドで共有し、共有したリンクを整理し作業効率を上げる事例をもとに、明日から使ってもらえる内容を紹介して操作体験。

※詳細は、【別添6】のチラシを参照ください。

【対象】小 中 高 特支 管理職 事務 教委

9 ○2/17 Tue. 15:50~16:30 (40分)

GIGA×公開授業研究会へのはじめの一步(共同編集の体験・Apple編) #校務DX #共同編集

校内で検討する際に、共同編集を用いて効率的に進める内容を操作体験。(iPadOS/Pagesを使用)【別添1】の実践事項を予めご確認ください。

*当日は、操作体験用iPadで予めお申し込みのQRコードより、プチ学習会IDのQRコードを照会してください。

【対象】小 中 高 特支 管理職 事務 教委

デジタル学習基盤の活用事例等を随時お知らせ

特設Webサイト StuDX Style

ブックマーク <https://www.mext.go.jp/studstyle/>

ギガスタメルマガ配信中

メルマガ登録 <https://www.mext.go.jp/magazine/index.htm#005>

令和7年度

情報モラル教育推進事業

情報モラル教育指導者セミナー

情報モラル教育に関する研究や実践事例を豊富に紹介!

第1回 9月11日(木) 16:00~16:40

どうすればいいの? 子どものネットトラブルがなかなか減らない!

ファシリテーター:
塩田 真吾(静岡大学 准教授)

事例紹介者:
大西 智彦(石狩市立花川北中学校 校長)

第2回 10月30日(木) 13:00~14:00

どうすればいいの? 学校の情報モラル教育の進め方がわからない!

ファシリテーター:
酒井 郷平(常葉大学 准教授)

事例紹介者:
佐和 伸明(柏市立大津ヶ丘第一小学校 校長)

第3回 11月14日(金) 16:00~16:40

どうすればいいの? 保護者に伝わらない・届かない!

ファシリテーター:
酒井 郷平(常葉大学 准教授)

事例紹介者:
伊藤 秀一(江戸川区立 第四葛西小学校 校長)

第4回 1月19日(月) 16:00~16:40

どうすればいいの? 生成AIの上手な使い方がわからない!

佐藤 和紀(信州大学 准教授)

※第2回は日本視覚聴覚教育協会主催「eスクール・ステップアップ・キャンプ」と共同開催

※アーカイブ動画は後日「情報モラル教育ポータルサイト」に掲載予定

※セミナーの内容に関しては一部変更になる可能性があります

申込フォーム

<https://84ea20da.form.kintoneapp.com/public/moral2025>

※右のQRコードからもお申込み可能

※原則事前にフォームよりお申込みください(時間変更等の事務連絡のため)

※お申込みが間に合わなかった場合、下記ZOOM情報からもご応募可能

Zoom 情報

ミーティングID: 915 0689 0051

パスワード: moralinfo

※Zoom情報は申込完了メールからもご確認いただけます。

申込QRコード



情報モラル教育推進事業事務局

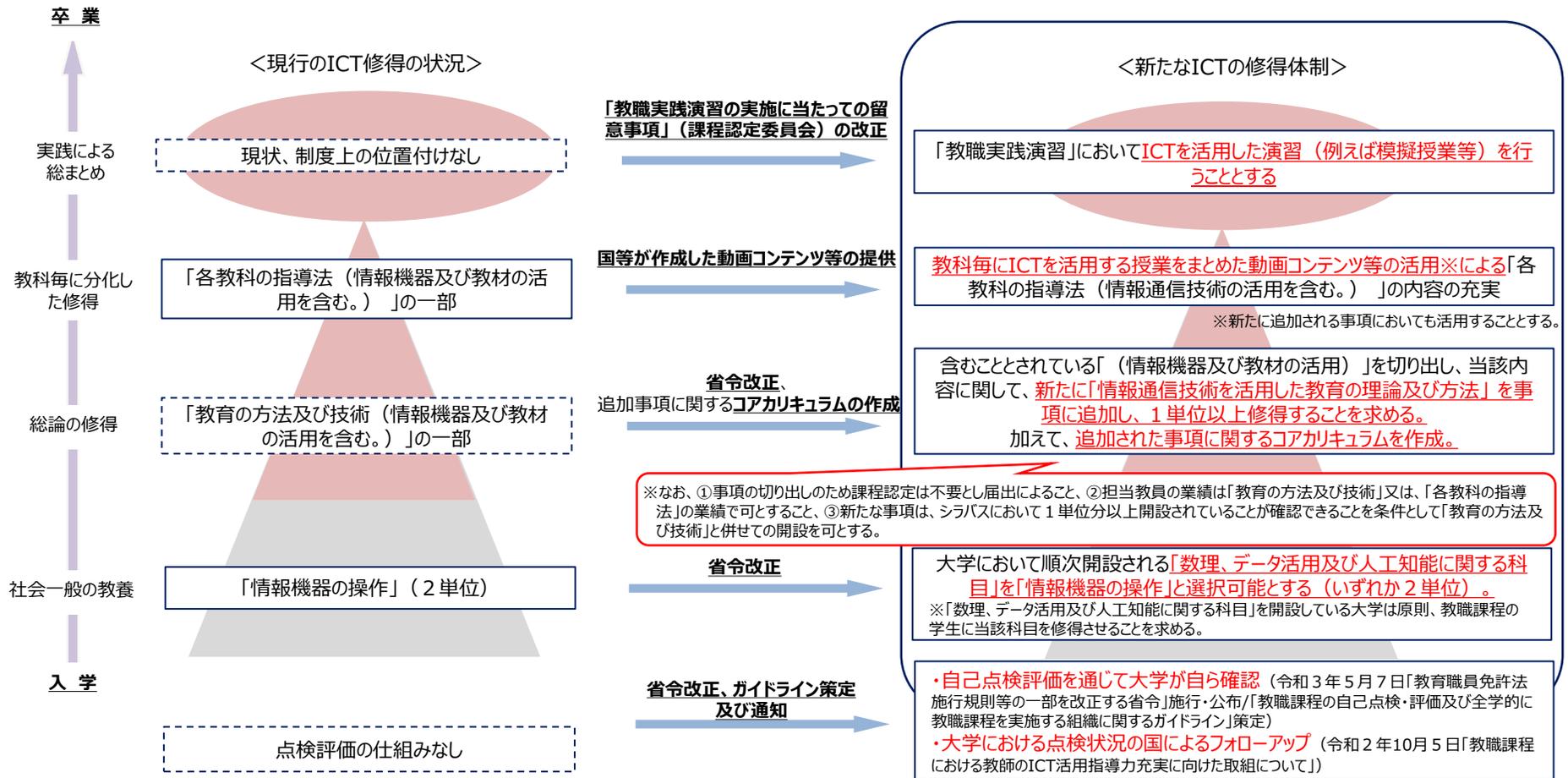
最新のセミナー情報や、情報モラル教育に関する動向については、情報モラル教育ポータルサイトをご確認ください。

<https://www.mext.go.jp/zyoukatsu/moral>

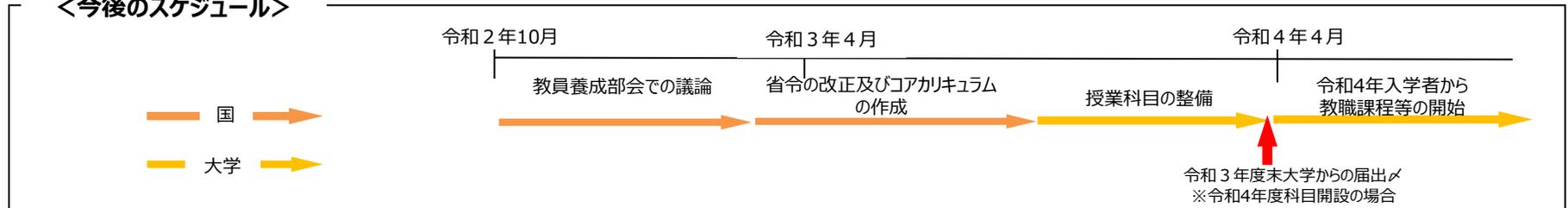
johomoral_info@nttlls.co.jp

63

教職課程におけるICT活用に関する内容の修得促進に向けた取組



＜今後のスケジュール＞



学校のICT環境整備3か年計画(2025～2027年度)

- GIGAスクール構想により実現した1人1台端末環境を前提として「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために不可欠な学習基盤であるICT環境整備のため、「学校のICT環境整備3か年計画(2025～2027年度)」を策定
- 必要な事業費は単年度で1,464億円とし、所要の地方財政措置



学校のICT環境整備計画(1,464億円)

※★印の機器については、元利償還金に対する交付税措置があるデジタル活用推進事業債の対象

計画において措置されているICT環境の水準

■ 学校のネットワーク	「当面の推奨帯域」を満たすなど 必要なネットワークを確保している学校	: 100%	
	無線LAN	: 100%整備	
■ 高校生の学習者用端末		: 生徒数の3分の1程度	※予備機や低所得世帯生徒等への貸与機等
■ 教師の端末等	指導者用端末★及び校務用端末	: 1人1台整備	
	業務用ディスプレイ	: 1人1台整備	
	次世代型校務支援システム 又は 統合型校務支援システム	: 100%整備	
■ 学校のニーズに応じたICT支援体制		: ICT支援員4校に1人配置 ヘルプデスクの設置	※複数の自治体が共同設置することも考えられる
■ 教室のICT機器	電子黒板等の大型提示装置★／実物投影機	: 各普通教室1台 特別教室用として各学校に6台	※実物投影機は、小学校及び特別支援学校に整備

上記のほか、充電装置(充電保管庫・モバイルバッテリー)、児童生徒用端末のセキュリティ対応、学習者支援ツール※についても整備

※各教科等の学習活動に共通で利用可能なツール(例: 教師と児童生徒間・児童生徒同士で資料共有や作業の進捗確認ができるツール)や、児童生徒の学校生活を支援するツール(例: 児童生徒の心や体調の変化を早期に発見し、支援するツール)

※ 上記に加え、GIGAスクール構想加速化基金を活用した義務教育段階の端末整備(補助率2/3)の地方負担分として単年度373億円を措置

【参考】文部科学省が公表している教育DXに係る当面のKPI

- 必要なネットワーク速度を確保している学校100%(令和7年度)
- 次世代の校務システムを導入済みの自治体100%(令和11年度)
- 教職員の働き方改革にも資するロケーションフリーでの校務処理を行っている自治体100%(令和11年度)

「ICT支援員の適正配置を」【令和7年3月】

文部科学省
令和7年3月

ICT支援員の 適正配置を

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のために

ICT支援員が支える学びの環境 ～授業も校務も、スムーズに～



Present an example

佐賀県武雄市 機器トラブル対応

ICT機器を安定して利用できる環境を整えるために、ICT支援員は学校全体の環境整備に取り組んでいます。具体的な業務として、校務端末や学習用端末の初期設定、ネットワーク接続状況の確認、各機器の動作確認を担当しています。また、ハードウェアの故障時には迅速に問題を診断し、市教育委員会や保守業者と連携して対応します。さらに、ウイルス対策やセキュリティポリシーの運用支援にも貢献しています。年次更新の際には、端末や周辺機器の棚卸しや、新入生用端末へのシール貼付などを行い、年度初めから円滑に利用できる環境を整備しています。これらの活動を通じて、児童や教員はトラブルを気にせず安心して、ICT機器を活用することが可能になっています。



CASE 01

VOICE



教員が授業に専念！

毎日忙しい教員にとって、端末の管理や機器のトラブル対応は容易なことではありません。そんな中、ICT支援員の立川さんがサポートしてくださるおかげで、安心してICTを活用することができています。また、校内研修では新しいツールの使い方を学ぶ機会があり、それ

が授業の幅を広げる大きな助けとなっています。教育DXを推進するうえで、ICT支援員の存在は今後ますます重要に感じています。教員が授業や生徒指導に専念できるよう支えていただいていることに、深く感謝しています。

武雄市立武雄小学校
教員 立川 智子

千葉県柏市 基本操作資料作成

柏市では、ICT支援員24名を全小中学校に週1～2日配置し、児童生徒への授業支援、職員からの相談対応、端末管理などを中心にサポートしています。教育委員会には専門性の高いアドバイザー4名が常駐しており、教育委員会や全校向けに研修会の実施、授業提案、校務サポート、アカウント管理業務を行うほか、「柏市GIGA WEB」等を通じて授業素材やマニュアルを提供しています。夏休みには、柏市導入ツールを対象とした職員向け研修（オンライン含む）を複数回開催し、多くの職員が参加しました。ICT支援員は毎月1回集まり、情報共有や技術研修を行うことでスキルアップを図り、支援員間での格差なく学校をサポートできる体制を整えています。



CASE 02

VOICE



分からないときのお助け資料！

仕事に関連する資料を作成して提供していただけており、大変ありがたく感じています。新しい機能が追加された際や、初めてアプリを使う際にすぐ確認できる資料があるため、とても助かっています。操作画面の画像や授業用スライドが保存されており、これらの資料をそのまま活用することで、作成にかかる時間が大幅に短縮されています。



Present an example

京都府 端末管理の効率化

学習用端末の活用は、試行期間を含め京都府で4年目を迎え、各学校では文房具として日常的に活用されるまでに広がっています。京都府教育委員会では、「ICT活用ガイドライン」や教員向けの端末設定方法を記載したマニュアルを作成し、各校の業務効率化を推進しています。また、教員の不安を軽減するため学習用端末の導入当初から情報通信技術支援員（ICT支援員）を配置しています。支援員は常勤職員が複数校を巡回する形ではなく、各府立学校に1名ずつ、週10時間配置されており、教員に寄り添った支援を行うことで、ICTの日常的な活用を促進しています。



CASE 05

VOICE



メンテナンスも安心してお任せ！

急速に社会の情報化が進む中、京都府のICT支援員の方々に、教員が安心してICT機器を活用できるよう、機器の管理やメンテナンス、修理対応などの業務を担い、教員を支えるために尽力していただいています。

各学校からは、「学校の広域業務への支援を含め、ICTに関わるさまざまな業務を正確に実行していただけるのが大変助かっている」との声が寄せられています。

茨城県つくば市 ICT支援員への研修

学校では、学校特有のソフトウェアやシステムを活用していることがしばしばあります。つくば市では、学校特有のソフトウェアやシステムの活用については、事前に市主催により研修を実施しています。研修を実施するにあたり、ICT支援員もアカウントを発行したり、児童生徒や教職員と同じ操作ができる環境を整えたりすることで、それらを活用して実技研修を行い、仕組みや操作手順を理解し、安心して支援にあたることできるようになっています。また、研修では、ソフトウェアやシステムの仕組みや操作手順だけでなく、学校の授業において、どのような目的での機器を活用しているか等の実践事例も見て情報共有をしています。

Other example



VOICE



研修を通して安心して支援！

事前に研修を受けてから学校を訪問することで、学校特有のソフトウェア操作について疑問を抱くことも、自信を持って適切な支援が行われています。教職員や児童生徒は、ICT支援員が操作方法や活用方法をサポートしてくれるおかげで、安心してICTを活用できるようになり、その結果、活用がさらに推進されるという好循環が生まれています。また、操作

手順や活用方法を理解している教職員でも、具体的な操作や更新作業などの技術的な課題が発生することがあり、それにより活用が一時的に中断してしまう場合もあります。しかし、ICT支援員は研修で問題発生時の解決方法を習得しているため、迅速に対応して問題を解決し、学びの中断を防ぐことで、教育活動に大きな効果をもたらしています。

VOICE



ICT支援員同士の連携！

学校特有のソフトウェアについて、事前研修が受けられなくても不安だったと思いますが、ICT支援員に「アカウントを貸して」いただいたおかげで、教員や児童生徒の視点で動作確認が行え、自信を持って支援することができました。空き時間には、ICT支援員同士で疑問点を語り合ったり、さまざまな活用を模ったりして、より良い活用方法のアイデアを出

し合うこともしています。学校を訪問した際には、活用方法について質問を受けることもしばしばあり、ねらに感じた知見の活用方法を提案することができました。実技研修や、アカウントを活用したICT支援員同士の研修を通じて、学校の先生方の活用の幅を広げられたことを、とても嬉しく思っています。

※府県間業務連携のため、年度当初に必要なアカウントを渡すかに行っていることが重要です。

https://www.mext.go.jp/content/20250317-mxt_jogai01-000010766_001.pdf